

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 25 日

事業所名 ニコちゃん家

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	17			
	2 職員の配置数は適切である	16	1	・基準の配置に加え、利用者さんの状況により臨機応変に対応している。 ・1対1を基本に、定められた定員に加え、緊急時想定やゆとりある支援のためやや多めに配置されている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	17		・7月に移転して施設内が広くなり過ごしやすい空間 ・通所内はバリアフリーとなっている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	17		・日々、利用者さんの状況に応じてレイアウトしている。 ・毎日掃除、物品消毒など行い、清潔に保っている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	15	2	・1か月に2回の全体会議に加え、1~2か月に1回程度、通所会議を実施しモニタリング前の聞き取りやモニタリング後の報告など行っている。	・会議に多く参加してほしいが、支援の関係で少数になる時もある。日時設定に工夫していく必要がある。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	16	1		
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	16	1	ホームページに公開している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9	8		一昨年より法人全体の活動に関しては第三者に助言等をいただく機会を設け始めたので、これを機に通所の業務改善に努めていきたい。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	16	1	・研修内容は職員から学びたいものをヒアリングしている。 ・勤務年数に応じた内容の研修を行っている。 ・外部研修などにも必要に応じて参加している。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	16	1	定期的にアセスメントを行い、計画の見直しを行っている。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10	7	・重心の利用者さんに適したツール作成し、アセスメントしている。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	13	4		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	16	1		
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	17		・職員で話し合って立案している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	17		季節に応じた遊びや創作、五感を使った感覚遊びなど固定しないように工夫している。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	17			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
ハ	17	14	3	・SNS等を活用し確認している。	
	18	12	5	・SNSなどを活用している。 ・振り返りの時間は設けていないが、専用のアプリでその日の利用者さんの状況や支援内容を通所、居宅の職員で共有している。	
	19	17		連絡票に時系列で記録をとり、共通アプリに記録を残し、実施できている。	
	20	17			
関係機関や保護者との連携	21	17		担当職員が参加するように調整している。	
	22	14	3		
	23	16	1	・医療機関、訪問看護、リハビリなどと連携をとり安全に日々の支援ができるよう努めている。	
	24	16	1	・必ず主治医に指示書に記入していただき、緊急時連絡が取れるようにしている。 ・通所と兼任の居宅職員が通院に同行したり、往診の先生に意見を聞いたり子どもの体調や医療的ケアの情報共有を日々行っている。	
	25	17		見学に来ていただいて、活動を見てもらうようにしている。	
	26	16	1	見学に来ていただいて、活動を見てもらうようにしている。	
	27	13	4		
	28	11	6	直接、園との交流はないが、イベントに地域の子どもたちも招待し、一緒に活動する場を設けている。	
	29	11	6		
	30	17		・連絡票に支援内容など記録し、その日の担当スタッフにて保護者と共有するようにしている。 ・些細なことでもいつもと違うと感じたときは、保護者と共有するように努めている。	
	31	10	7	助言を行うことはあるが、プログラムとしてはまだ達成していない。	対象者が少ないため、実施していないが、今後事例があった場合は検討していきたい。
32	17		契約時にお話ししている。		
33	16	1	支援計画はモニタリングに基づき、3～6か月に1回修正しており、その都度同意を得て支援を行っている。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	17		・相談や、悩み事など話しやすい雰囲気作りに努めている。 ・相談事などは居宅支援担当と共有し一緒に考えるようにしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	8	・保護者会はないが、保護者が参加できるイベントなどを年に数回開催し、保護者同士が繋がれる機会を提供している。 ・自発的な活動を後押ししている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	17		・相談や申し入れ、苦情などには迅速に対応するよう心掛けている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	16	1	・事業報告書(nicochanism)を年に1回発行している。 ・HP、インスタなどを随時更新している。不定期なイベントなどはチラシやSNS等で随時発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	17		注意して取り扱っている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	17		連絡票を使ったり、必要時、電話や面談を行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17		・ニコフェスや演劇などのイベントの際には、地域の皆さんを招待し、交流の場になるように企画実施している。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	17		・緊急時対応、感染対策についてはマニュアルを策定し、ファイルに保管しており職員はだれでも見れるようにしている。 ・防犯対策は行っているが、マニュアル化していない。	新しい通所での防犯マニュアルを策定し、周知していきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	17		年に数回、避難訓練または、避難・救出のシミュレーションなどを実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	17		アセスメントの段階で詳しく確認させてもらっている。通所中の発作なども保護者と共有している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	16	1	アセスメントの段階で確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	17		・ヒヤリハットは全職員で振り返りを行っている。 ・事故が起きないためにはどうすればよいか、全職員で意見交換を行い、共有している。	ヒヤリハットや事故が起きた後の連絡体制や対応の方法も、今後、全職員に周知していきたい
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	17		職員研修で毎年実施している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	17		基本、身体拘束は日常的に行っていない。保護者からの依頼で安全上、身体拘束を行う場合は同意書を交わした上で実施し、その時の様子を都度記録に残している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。